

風 韻

第14号

(一九七四年度)

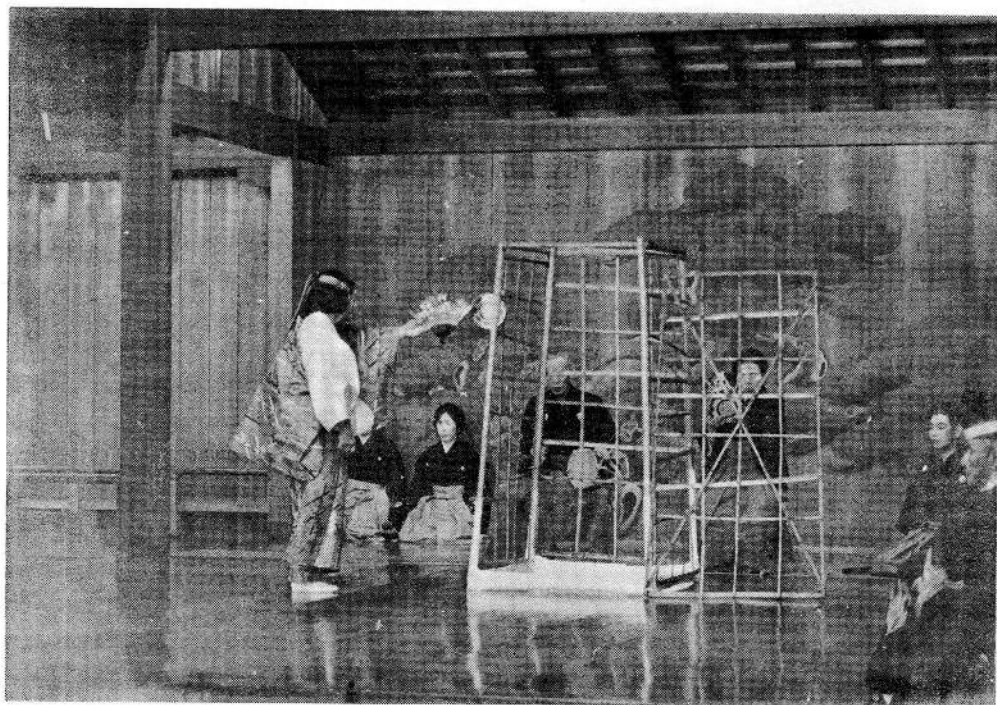
神戸大学風韻会

風 韻 第 1 4 号 目 次

◎ 五十年の体験(その七)-----	宇治 正夫	1
◎ 風韻会諸氏へ-----	会長 荒川 祐吉	2
◎ サークル論-----		4

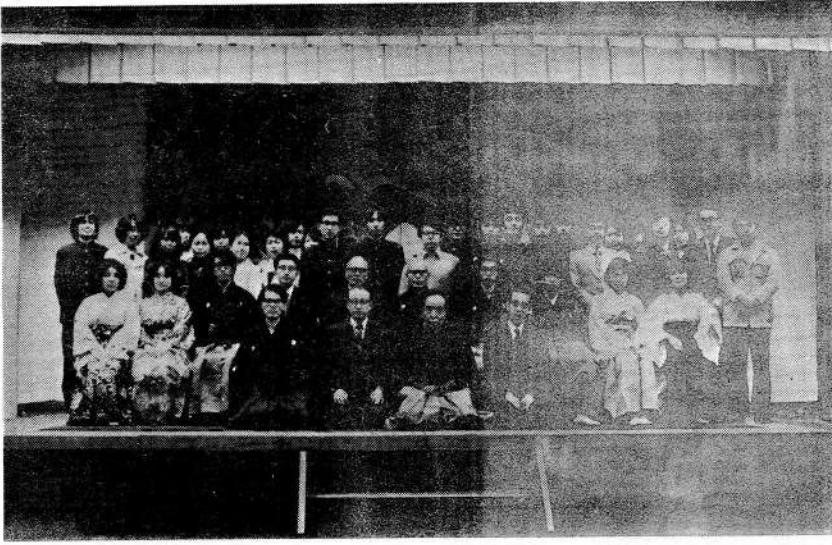
○ クラブと私-----	25回生	4
○ 能とクラブと私-----	24回生	7
○ 咳 き-----	23回生	10
○ うしろ姿-----	22回生	12
○ 一先輩の意見-----	O. B.	19

◎ 自由投稿-----		20
○ 貴女達へ-----	N. M より	20
○ 走馬燈-----	B22 山口 剛	20
○ 風韻会卒業論文-----	T22 山中 明	21
○ 能の中の悲しい劇-----	P22 横山 博江	23
◎ 四十八年度活動報告-----		24
○ 「内と外」-----	E23 浦田理一郎	24
○ 文化総部活動報告-----	P24 山崎喜美子	24
○ 学連に出て-----	P24 木村 升治	25
○ 決算報告-----	会 計	25
◎ あしあと—昭和48年度—-----		26
◎ 幹事長就任にあたって-----	B24 加藤 久佳	27
◎ 新役員紹介-----		27
◎ 昭和49年度 主要行事予定表-----		28
◎ 風韻会名簿-----		28
◎ 編集後記-----		30



籠 太 鼓……字 治 正 夫

昭和48年12月9日
於 大 槻 能 樂 堂

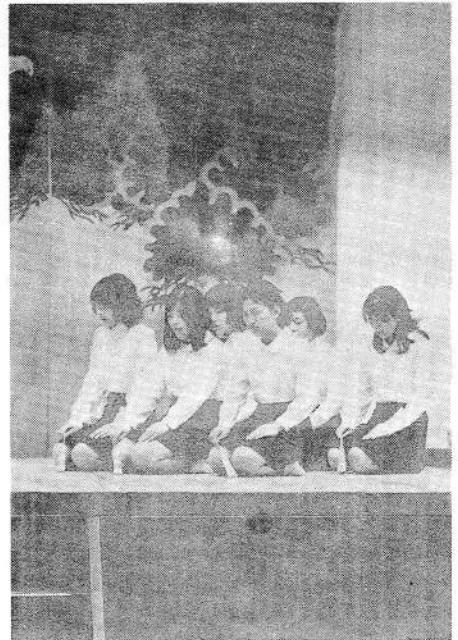


秋季発表会(昭和48年11月17日学生会館)



男子部員

女子部員



五十年の体験（その七）

宇治正夫

人間の眞の幸福はその人の持つて居る全力と全精神を打込んで一
所懸命になれた時であると考えます。

能の組織の基本を為す謡曲は、その節の曲折、緩急、抑揚、拍子
能の形に副う気持ちなど、あらゆる条件に叶い、そして、能のねら
いとすする所を余す所から表現することは至難の事であり、これを本
職とする能楽師といえども、完全にこれを果し得る事は不可能と言
っても過言でない。究むれば究むる程、努むれば努むる程、自らの
足らぬ事を痛感するのが能の道であり、このことはまた、あらゆる
道にも通ずる事と思えます。しかし、未熟初心の人といえども、一
心をこめて理想に向ってひたむきに精神する姿は、名人上手の理想
に近い芸境において、表現する姿と変わりはありません。數百年を
経た松の老木も芽生から生長している双葉の幼木も、その心と力、
伸びゆく姿の上においては少しも変わらないといえるのではありま

すまいか。

「初心忘るべからず」と申しますのは、無心に芸道に没入する境
地は初心も大家も変わりはないことを教えたものと思えます。道に
入って年を経、力がついてくるにつれて、とかく枝葉にとらわれ、
本体を忘れがちになるのが人の常で、それゆえにこそ、邪心なき初
心を忘れないことが肝要なのであります。初心であっても、決して
憶することなく正しく静座して精神を集中して謡っていけば、いつ
の間にか大成の日が来るのであります。

大切なことは理想を求めて無心の精進を怠らぬことであり、こう
した精進の中に芸とともに、人間そのものが高められていくのでは
ないでしょうか。

芸道がもつ至徳であるといえると思えます。

風 韻 会 諸 氏 へ

わたくしの専攻しているマーケティング論という学問の基礎概念のひとつに、「製品のライフサイクル」というのがあります。これは、どのような製品であっても、それが販売されはじめてから、だんだんと急速に売れゆきが鈍り、ついには売れゆきがとまってしまふといった途をたどることを意味しています。そして、このような製品のたどる途のそれぞれの段階で、それに最もふさわしい売り方、具体的にいふと、価格のつけ方、広告のしかた、などがあります。が、もし、このような売り方が適切におこなわれると、その製品は、十分に売れ、その製品に与えられた社会的貢献をフルに実現することができるとも、売り方が適当でなければ、その製品は本来の使命を果すことなく、世間から消えて行かねばならないともいわれているのです。

この場合、製品を生かすも殺すも、それはその製品を作った人間の側の行動いかによるわけですが、同じようなことは、私達の人々生そのものについてもあてはまると思われます。ただ、人生では、

会 長 荒 川 祐 吉

それを生かすも殺すも、その人生を送る当事者自身であるという重要なちがいはあります。しかしこのちがいは、それだけ一層、私達自身の行動の持つ意味を大きくしているのだといえましょう。

人生には乗り超えられない一定のサイクルがあり、そのサイクル上の自分自身の位置づけに応じて、最もふさわしい生き方を探究し実践することが、真に自分自身を生かし切る唯一の途であることを、この「ライフサイクル」概念は示唆しているのです。

ところで、少し以前になりますが、ラジオで、観世宗家が、花伝書の解説をされているのを聴く機会がありました。その解説中で、最も印象に残ったことは、世阿弥が、年令に応じて、修業の内容、到達すべき芸境が異ならなければならないことを、実に明確に指摘しているということでした。このような指摘は、私のように、学問の世界に生きようとする者には、そのままであてはまるもので強烈な印象を受けたのです。しかし、たとえ人生の時間の一部ではあっても、クラブないしサークル活動の一環として、謡曲、能の世界に生

登録 商標



御 葉 子 司
常 盤 堂

神戸市東灘区御影中町
(国道中御影電停上ル)
電話神戸 (851)4677番

雀 荘
六甲クラブ

市バス六甲口から南へ30m 下る
(821) 2689

きょうとする風韻会の皆さんにとっても、これは誠に示唆に富む指摘ではないかと思われました。ここで言われていることは、技功の上手下手の問題なんかではありません。私はここから、芸境の進歩は、単純な一方向的な姿をとるものではなく、それぞれの段階に応じた最高境地というものがあるべきこと、人はそれぞれ、その置かれていた状況のもとにおいて、最大限自分を生かす途があり、それを全力をあげて探究すれば、独自の価値あるものを生み出すことができること、といった意味を読み取りました。

科学の世界で言われていることも、芸の世界で言われていることも、結局は、同じ一つの人生の真実を示しているのと同じことに見えてよいでしょう。その真実とは、自分自身の置かれている状況のもとで、その時々、それにふさわしい精一杯の生活をするのが、最も美しく、また最も善い結果を生むのだということではないでしょうか。

淡路・四国へ
待たずに行ける…

淡路フェリーボート

お車なしでもOK!!
本社：神戸市長田区駒ヶ林南町
TEL.078(731)0675

資生堂チェーンストア

横山薬局

文具・小間物etc

赤穂市有年駅前
(旧国道2号線沿い)
TEL.(079149)2032

LADY'S SHOP

セーター、ブラウス…
スカート、パンタロン…

フ シ ミ

湊川商店街 神戸
TEL.(511)2043

升ちゃんが待っているよ??

木村タバコ店

TEL (06)943-1931
東区内本町2-31
山本能楽堂南 100m

クラブと私

25 回生

工学部 小島 改章

風韻会に入って七ヶ月。入った時はただ驚きばかり。その練習の
迫力、緊迫感。遅れて入ったハンデを感じたのか、ただひたすら一
生懸命やるしかないのだと自分に言い聞かせ、どうして風韻会に入
ったのか、なぜ話をやる気になったかなんて事は考える余裕もな
かった。(今でもわからないけど)

私自身クラブという集団に籍をおいたのは三年ぶり。つまり中学
校からしばらくその媒体から遠ざかっていた次第である。

中学校の時のクラブっていうのは、ただ好きだからとか、趣味に
だとか、その程度の事であったが、大学のクラブでは少なくともそ
ればかりではないと思う。何かしら、どういふのか社会というニュ
アンスのしめるウェイトが大きいような気がする。だから自由の中
に束縛はあるし、束縛される中にも自由はあるのだ。しかしあくま
でも集団社会であるからわがままは許せないと思う。(こんな格好
いい事、書いていけるけれど、私自身そのことがはっきり自分の中

割り切れているかどうかとなれば非常に疑問だ。まだ一年生だから
という甘えがある事は確かだし。)

さて風韻会に入ってまだ七か月。でもいろいろあった。入って二
週間に四大学の発表会。あの時のコンパはよく飲んだ。史上二度
目の二日酔。それから秋季発表会、園遊会……。(一年生で過去を
振り返るなんて年寄りくさいな。もっと前向きでなくっちゃ。)

一つ言える事は、クラブに入った事が私のこの一年を有意義に、
そして愉快に送れた事である。これからも愉快にいきたいものだ。

経済学部 伏見 正章

「なぜ風韻会に入った？」と訊かれたら、

「大学に入ったら何か、今までと違うことをやってみたかったから。
オリエンテーションで偶然に見た仕舞に憧れたから。足袋の好き
な母親が喜んでくれると思っただけ……。美しい女性に何度も誘
われたから。部屋を覗きに行ったら強引に勧誘されたから……。」

理由はいろいろある。そして僕は今、風韻会の会員である。

入会してから今まで八ヶ月足らずである。未だ短い期間だけれど
もかなり多くの経験をした。中学、高校と男子ばかりの生活だった
ので、一つの組織の中で男女が一緒に活動する、なんていうのは小
学校以来六年ぶりの事であった。正直言って、はじめはどうふるま
ったらいいのか全くわからなかったし、いかめしく話を練習してい
る人が何だか恐しくみえた。「この人が幹事長さん。そしてこの人
が……。」紹介されても何が何だかさっぱりわからなくて、何とかな

るだろうとは思いますが、不安感はぬぐえなかった。今から思うと少々滑稽でもある。

謡いや仕舞を習ってゆくの平行していろいろな興味深い行事がある。大学間の交流、コンパ、そして発表会。今までどれ一つとして経験のなかった事。自分の限界を感じて寂しくなったりするときもある。また、高校時代には考えてもみなかったような面白い経験もある。とにかく、これからの三年余りの学生生活の中でクラブの占める割合がどう変遷するか、見つけてゆくのも面白い。

経済学部 香 西 千 秋

私にとってクラブとはどんなものなのでしょう。能について何の知識もなく、特に興味があつたというわけではないのですが、風韻会というクラブにはいり、あつというまに一年が過ぎたという感じでした。去年の今頃、大学にはいったら何かのクラブにはいり充実した学生生活を送ろうと考えていたのですが……。この一年間をふりかえてみてクラブに限らずGに対しては全てのことに対してすごくあまい態度をとってきたように思います。もう一度クラブのこと、自分のことを深く考えなおしてみたいと思います。

教育学部 木 村 京 子

クラブにとって私の存在はいったいどんなものだろうと考えてみましたら、私のいない風韻会なんてクリーブを入れないコーヒーマ

たいとは冗談にも言えないことですが、さしづめ私はクリーブの一つぶっていうところかしら。それでは、私とクラブの関係はと言いますと、へたなたとえですが、レモンと紅茶の関係だと思っっています。そしてまたこれは私だけの好みで、レモンを入れない方がおいしかったり、入れた方がおいしく感じたりするのです。また、レモンがききすぎることもありすが……。今の私には、クラブに入つてよかつたと思つています。けれども、私ははまだ能が全くわからないという感じですし、練習も熱心にはしないのでこんなことではないと思いつつ足が部室から遠のいてしまうのです。今私に言えることは、もっと興味を持つことが第一の問題です。そしていつもおいしいレモンティであること!!

教育学部 竹 本 志保美

大学に入学してあつと言うまに9カ月余り、そして、当然、風韻会というクラブに入部して8カ月、「光陰矢の如し」とはよくいったものです。昔の諺にはいろいろな言葉があると感心します。それはいいとして、私は始めクラブに入るなら音楽系のクラブに入りたいなあと思つていましたが、この古風なクラブに入つてしまいました。今でも、高校時代の友達に会うたびに、「ヘー、ションチャンがネエー。」なんて目を白黒させて私の顔をまじまじとながめるんです。私も始めこのクラブ続けられるやろか?と何度も疑問に思ひながら、今でもそれは同じですけど、今日まで本当に曲りなりにくつてきました。今頃は、なんと言いますか、倦怠期でもな

いけれど、クラブに入っていない友達がうらやましく感じるんです。自由への憧れという感じですが。でも、束縛があるからこそ、自由の楽しさ、喜びがあるのだと思います。クラブに入って良かったと思うのは、友達がたくさん出来たことです。それにまじめな方が多いので、いつも勉強の方でお力ぞえしてもらっています。本当にこんな調子で毎日学校へ通い、何もせずに、4年間、正確には3年間ちょっとを過ごしてしまいそうな気がして本当に残念でたまりません。この大学生活の間に、これからは、失敗を恐れずに、何でもやってみたいと思っています。どうか、よろしくお願いいたします。

教育学部 田中 恭子

「風韻会と私」「私と風韻会」さてなんだろうって私は考えて、とまってしまうのです。なせてクラブの中の私は小さな存在、そしてもっといけないのは私の心の中のクラブというのは、それ以上に小さなものになってしまいかけていますもの。さあどうしたらいいのでしょうか。

大学に入ったのは四月、もちろん風韻会に入ったのも四月でした。あの頃は雨ばかり続いていたっけ。そして五月のジュニア合宿、初めて仕舞を覚えたのでした。ところが六月にはもう大槻の舞台に立っていましたね。あの吉野夫人の連吟は忘れかけているけれども、舞台上に初めて立ったあの感激だけは忘れまいと思えました。しかしあの時は上がってしまってほとんど何も覚えていないのが本音なのです。とても残念、その後いろいろな行事はあって、現在に至って

いるわけですが。

その間に私のクラブへの関心は強まったり弱まったり連続で、むしろ弱まりすぎるぐらいになってきています。といっても私は大変気まぐれなのです。今これを書いている間に、だんだん語がしなくなってきました。こういう場合は迷わずに、書くのをやめてすぐ練習するほうがいいようですね。そうすればクラブに対する私のつまらないことも吹きとんでしまいそうですから。

経済学部 岡崎 啓子

この一年がとて早く過ぎ去ってしまったような気がします。

クラブ活動やG、読書会それにクラスの活動と何となく忙しい一年だったからでしょうか。クラブにおいては少し行事が多過ぎるようになっています。周囲に押し流されてしまって、真剣にクラブの存在や私自身の存在について考えないで、この一年を送ったようです。今改めて、クラブや私を見つめ直してみたいと思います。

教育学部 広野 勢津子

昨年の六月頃にも風の音の原稿のためクラブについて書かされたようです。何を書いたかな。よく覚えていません。早速本棚から取り出して読み返してみました。最後に楽しくて仕方ありませんと書いてありました。そうあの頃は本当にクラブは楽しいものでした。たくさんさんの見知らぬ人の中にある不安を感じていた後、クラブへ行

くと、そこには知っている顔があり、ほっとする毎日でした。何も知らなかった事を自分は始めているんだという喜びを感じていたのも確かです。風韻会というお風呂の中にザブーンと肩までつかっている様な私だったのです。それで満足していました。一年生だから、まだ何も知らないから、ただ追って行けばいいんだとも思っていました。理屈抜きに楽しかったのです。でも今は少し違ってきています。私にとって風韻会というものが大きな位置を占めていることは変わりありません。楽しいものであることも変わりないのです。

ただ様々な問題が出てきたのです。(出てきたと言うよりは、先輩の方々にその問題を指摘されたと言った方がいいと思いますが) 私たち一年生の、そして私の欠点を。正直言って初めはとてもショックでした。でも先輩に言われたことをよく考えてみると、確かに理にかなっているし、これからの私たちのあり方というものについての助言となることばかりでした。今では、とても良かったと思えますが、しかし、先輩にはああ言われた。それも理屈として納得できました。じゃ、実行に……。という段階になると、やはり、あれこれと迷ってしまうのです。クラブに入ってもう八か月になります。そして後四か月もすれば二年生になって一年生を教えなければいけません。どうすればいいのかな。今は、クラブは楽しい、でも時々、突拍子もなく逃げ出したいと思う。そういう時期にいるのかもしれない。

能とクラブと私

24 回生

経営学部 加藤 久佳

……ああ 五番綴と世阿弥殿

只今 私 風韻会のしがらみ小柄し悶児浪

高校時代 能は…… И топотаю в мольбу

能・のう・ノオ アツ知ってるよ

日本史の教科書の世阿弥さん?

クラブって……そう受験勉強の眠気醒し。

きっとそう そうだったに違いない

ヤツと入った どこに入った

誤解するなよ 大学へ

大学の授業ってつまんない 高校授業の繰り返し

波に漂う悶児浪さん どうしましょう

どうしましょうね

ここでチョット寝心感で休憩で

そこで

フツと浮んだ風韻会 そこへ入ろう入ろかな

部室で正座で前には五番綴

シテ上 世阿弥さんよ 久しぶり ここで会ったが百年目
サシツヨク（それ青陽の春になれば 四季の………）
拍不合

それ以後無我夢中 一日四十八時間

床の中でも鶴亀よ

橋弁・吉天・大仏供養に土蜘蛛で

それから経正 羽衣で 田村 東北 終りは紅葉狩で上中下

気が付きあ 悶児浪よ お前は幹事長 つきはぎだらけの五番綴

これが私の歴史です。短く長い歴史です。

頑張りますよ これからは

能とクラブと私は支離滅裂

……私の寸評から……

教育学部 木村 升 治

能の舞に引かれて、クラブに入った僕ですが、二年間には、謡との両方の練習に、いささか参ったという時期もありました。生まれつき日舞や盆踊りといった踊るのが好きな僕には、仕舞の練習は、それほど苦には、なりませんでしたし、かえって楽しささえありました。しかし謡の方は、すわるのは慣れているのですが、持病の都合により困ったこともあって長時間……は、苦痛である次第でした。でも考えてみると楽しいことの方が多いぐらいですし、先輩一同がりっぱな方ばかりですので、いいクラブに入ったなあと感じている

のです。

能と接触して二年程ですので、楽しんでるといった程度で、まだ、むつかしいことはわかりません。従って、正直な所、能楽に対しては「アアいいなあ。」といったぐらいの感想しか残らないのです。テレビを見ていると同じ時間帯に能と舞踊（歌舞伎）があれば、舞踊の方にチャンネルを回すほどで、これも接触年度の違いと一般性、自分の好みという作用が働いているためでしょう。学生時代を過ぎると、やはり日舞一本に絞るでしょうから、今のうちにしかできないという気持でがんばるつもりです。

医学部 児島 新

一年半のクラブ生活の中で、私に見て来た能の数なんて、ほんと、一両手があれば間にあう程度なのに「能とクラブと私」だなどと大それた事が……私しゃ書きますよ。私はそういう男なのだ。とはいうものの先輩方々が、いやいや後輩までもが、何時あったダレダレのナニナニはコレコレだった等という話を聞くと、もう体を小さくすばめてしまっ、目だけギロギロ動かして相手の形勢をうかがっている現状。それにしても皆様、一度見ただけで演者の名前なぞまあよくも覚えられるものだと、感心したりアキレたり（これは私のヒガミ）そして私は分らないのです。一体「能」を観る時は、どこかの何をどんな風に見たらよいのですか？耳で何を聞けばいいのですか？ こんな事、人に聞く筋合いのものではないですね。自分で沢山観てるうちに分ってくるんでしょうね。

でも私は、謡のもつ未知性に強く引きとめられるのです。残念ながら、それは私にとって神秘性ではありませぬ。私の中に先天的に存在するらしき「知らないものに執着する本能」が私を狩り立てます。（「謡」にですぞ）

一方、私しゃクラブも大好きなんです。そりゃ、その中には、いやな事も、いっぱいつまっていて、入った当所、いやな事ばかり目について、もうゲップゲップ てな事もありましたよ。でも、やっぱり長い間、つかってたら、やっぱりいいって感じがしますよ。

ただ現在の私には、風韻会の目標は「クラブ」と「能」の二本立てに見えるんです。これは文系のクラブの内でも、多量の個別練習を必要とするクラブの、一つの傾向か、私の偏見か知れませぬが、何とかして「我々の目標は一つだよ」てな事が言えるようになりた

いもんですね。

なにを書きましよう。クラブと能と私と……。

私が風韻会にはいったのは、もう二年も前の四月×日。以来ずっと居続けております。はじめの一年は、かなり惰性的。それでいながらクラブ以外の世界は、ほとんど知らず。交友関係もクラブの人のみといったあり様。はじめて能を観たのは、合宿の帰り、確か半分くらいねっていたはず。ただ「通盛」だったかな、後半何故かハッと目をさまして：今でも覚えている：なんだかわからないけれど妙にはっきりとした興奮、きつとはじめてだったからですね。

最初の一年は、不思議とよく能を観に行った。修羅物が好きだったな。おもしろいから。だけどいつも前半ねていたみたい。あの頃自分では、ずい分たくさん観たような気がするけど、覚えているのって少ないな。二年になってクラブに行くのがおもしろくなった。謡が好きになった。というより部室で一人で練習するのでもあまり恥ずかしくなくなつたんだナ。節がわかるようになる。すっかり上手になつた気分。危ない頃ですね。この頃から三番目物をおもしろいと思うようになった。能を観ても途中でねるのが少なくなった。やつとズブの素人に毛が生えかけたのかしら。どうでしょう。そして今日に至る。なぜか、いまだに大学生活の中に於ては、風韻会以外の世界を全く知らず、知ろうともせず生きています。これじゃいけないのかもしれない。でも本人が満足してゐるならいいじゃないですか。今は、幹事学年になって、自分なりに責任かんじで悩みも多いのです。皆さん頑張つて風韻会を引っばって行きましよう。

教育学部 山崎 喜美子

三つの事を、同時に考えるなんて、私には、できないので、「クラブと私」、「能と私」というふうに分けて、考えていきたいと思えます。「クラブと私」。今までを、振り返ってみると、客観的にクラブの事を考えよう、考えようとしながら、時が進むにつれて、風韻会という少人数では、あるけれども、その中の人間とおし、大きな渦となっている、その渦の中の一つの泡として私は存在してい

ある風韻会人の口まき

経済学部 浦田 理一郎

たのです。私が一年生の時、いろんな事で悩んだ記憶があります。それは、きつと、まだ渦に巻きこまれていなかっただからでしょう。本当のクラブ員になるには、渦の中へ巻きこまれないといけないのでしよう。でも、幹事学年になろうとしている今、少しは、つらいかも知れないけれど、渦の中から、少しだけ離れて、もう一度、考え直す必要があるのでは、となまけ者の自分に、いい聞かせている私です。その意味でも、昨年、学連の研究局に参加した事は、私にとって、大いに意義深いものでした。つまり研究局に参加して、色んな学校のクラブを見、人を見る事ができたのです。『クラブ』というものを、少しでも、外から見る事ができたのです。そして、もう一つの利点。それは、「能と私」の方に入っていくのですが、私に能のおもしろさを教えてくれたという事です。私は、三番目ものについて、調べたのですが、今まで退屈で仕様のなかった、足の動きが、手が、女性の喜びをあらわしていたり、恨みであったりするのです。全く興味本位で『勉強』とここに書くのも、気恥しいものでしたが、それだけでも、今までとは違った感動がリアルに伝わってくるのです。という事は、又、なまけ者の私には、悲しむべきなのか、喜ぶべきなのか、能というものには、勉強がついてまわるものだ、という事を如実にあらわしていると思うのです。風韻会というクラブに入って、そして、能を知り、大学に入って、何を学んだらよいか、全く解からなかった私が、その手がかりとなるものを知った、という事。少し大げさかも知れませんが、私の人生の大きな、役割をはたすのかもしれない。

私は幹事長を九ヶ月間やらせて貰った。終って思うに、歴代最悪の幹事長ではなかったろうかという感が強い。三年になる前、私には私なりの抱負があった。七月迄は一生懸命やった。ちょっといれ込み過ぎてたのかも知れない。行事をこなし、合宿を進めて行くうちに、私が部員に要求しているものと部員が認識しているクラブというもの間には全くのギャップが存在していた。その端的な例が一部の部員達の次の言葉である。「私、そこ迄クラブに束縛されたくありません。」

噫乎。一体誰がクラブを造っているのだ。我々風韻会々員一人一人ではないか。クラブの粹なんてないのだ。部員一人一人の意識の外側を繋ぎ合わせたもの、それがクラブの輪郭だよ。私達はクラブに入れて貰ったんじゃない。入ってやったんだよ。クラブを自分の所まで引っばって来ればいいじゃないか。どうしてみんな、もっと積極的に繋がろうとしないのかな。

とにかく、二学期以降、私は少々クラブの運営に関して気を抜いてしまった。あらゆる事に関する準備が少しづつ、少しづつ遅れてしまい、クラブ最大の行事である、秋の発表会の番組が刷りあがっ

たのは、発表会の数日前だった。又、諸先輩方への通知も、かなり遅くなり、近年になく諸先輩方の少ない、淋しい発表会になってしまった。それでも、一応は表向き失敗のないものに見えただけに、心中、忸怩たる思いであった。

何はともあれ、前年の失敗の最大は、諸先輩方々に対する連絡の不行届に止めを刺す。これは何とも弁解のしようがない。こんな私、今、昭和四十二年以来造られていない先輩の住所録を整備しようとしている。これは、一つには、私の年に限り、幹事長を九ヶ月しか相勤めなかった、その埋め合わせの意味もあるのだから、この仕事だけはしっかりとやる心算だ。

教育学部 藤 枝 聡 司

サークルとは人間関係、やっぱり。それを、むしろ個人的感情を捨て去った所に求めていた。能という演劇が、*「虚」*に徹することにより、*「実」*の本質に迫ろうとするように。そしてまた、能が、*「実」*と呼ぶべき技術の確かさに支えられて一筋に、*「虚」*の世界に徹しようとするように、媒体というべき謡、仕舞の練習に時を過ごしてきた。……

でも今、新しい夜明けを感じる。それは新しく迫り来る、*「実」*の世界を示唆するように。長い夢もいつしか終わる。……

自 惚 れ

寺 本 博 行

I do my thing and you do your thing.
I am not in this world to live up to
your expectations.

And you are not in this world to live
up to mine.

You are you and I am I,

And if by chance we find each other,
it's beautiful.

人のすむところには恋がある

恋は引力

でもわが心に引き寄せて愛するもの

人のすむところには酒がある

酒は引力

でもわが口まで引き寄せて飲むものである

ある風韻会人のうしろ姿

22 回生

神戸大学風韻会のサークル論

経営学部 山口 剛

この問題はこれまでしばしば取り上げられているが、神戸大学風韻会のあり方を云々するときにはその主な構成員である現役学生のあり方から検討しなくてはならない。

我々は第一に人間である。食事をし睡眠をとり、ものを考え、趣味をもち、家族をもつところの人間である。

第二に我々は学生である。

本学経営学部の稲葉襄教授はある講義の中で「歌を忘れたカナリヤ」つまり「学問を忘れた学生は六甲の裏山に放つてしまえ。」と述べられた。学生の本分は勉学であるということ指摘されたのである。正にその通りだと思ふ。

第三に我々はクラブに属する部員である。

このように三つの側面が存在することを明確に認識すべきである。それならばつぎに三つの側面をどのように織り交ぜるべきかが問題

となるけれども、この間に対しては、人間として学生として部員としての必要最少限の条件は少なくとも満たすべきである、と答えることはできるとしても、さらに三つの側面のどこに強調を置くべきかは人それぞれによって区々であり唯一絶対の答えは考えられないのではないだろうか。どれか一つに強調を置く人（表中の①から③までの三通りのタイプがある）、どれか二つに強調を置く人（これにも④から⑥まで三通りある）、三つをすべて同等に扱う人（⑦の一通り）、まちまちである。現在、社会で活躍している人々の学生時代をみても、クラブに専念した人（②）、勉強一本ヤリの人（③）、学問とクラブを飽くまで両立させた人（⑥）などいろいろタイプがあつて、どのタイプが最も良いかは一概に言えない。しかし、神戸大学風韻会は多くの者の集まりであるから、一部の人の行き方に合わせることなく平均的なところに基準をもつて、従つて最後の⑦の

	人間	学生	部員
①	○		
②		○	
③			○
④	○	○	
⑤	○		○
⑥		○	○
⑦	○	○	○

型を基準にして運営されるべきである。

つぎに神戸大学風韻会は、謡曲の解釈、仕舞・能の鑑賞という面においては確かに文化クラブであるけれども、他方身体を動かすことによつて何かを得るといふ点ではポート・ラグビー・柔道などの体育系クラブの性格をもっている。声を出して腹筋運動をし、足のしびれや痛みと闘い、或いは仕舞の場合にはまさに全身運動そのものをする。これら二つの性格はこのクラブの車の両輪ともいふべきかもしれない。しかし後者にヨリ大きな重点を置くべきである。謡曲・

仕舞の稽古が神戸大学風韻会の本質である。

そしてクラブの、神戸大学風韻会の目的は、謡曲・仕舞の習得を通して芸術に触れると共に人格を向上させることである。

俸せへの提言

工学部 中川 憲 一

クラブの四年生というものは一体何なのだろうか。やがて風韻会から去りゆく者として四年間を振り返り考えてみると、四年生という時期が一番あいまいであったように思える。一年生、二年生の間はクラブに対する興味や楽しさ、あるいは能の神秘性に魅かれ、クラブの本来の後輩生活を送り、三年生で幹事学年としてのクラブ運営の責任を果すべく努力したと思う。然し四年生になり幹事学年を退き、それまでの積極的な運営活動に対し、むしろ消極的な目付役的存在になった訳である。そして卒業研究や大学院入試等の理由で今迄よりも活動日の出席回数が減っていったのである。ところが告白すれば、唯学業の為にだけで出席回数が減ったのではない。それは運営活動の責任を一步退いたという安堵感と、最上学年という特権的自由を与えられたかのような錯覚に囚われていたというのも原因しているのである。ところで、四年生は毎年クラブから遠退く傾向にあるようだ。それは確かに学業の忙しさの為もある。然し、それが総ての原因では無いように思われるのは、自分がそうであった為だけであろうか。実質上の運営の責任を離れた安堵感とそれに伴う特権的自由を得たかのような錯覚が四年生をクラブから遠ざけ

る一要因になっているのではないかと思われる。言い方を交えたと四年生は現状では淋しい存在ではなからうか。実に老人的感覚ではあるけれどそう思っているのは私だけではなからう。確かにそれは個々人の意識の問題である。四年生としての使命というものは、最上学年として幹事としてではなくそれ以上に重要であり、且つ責任の重いものであろう。それが本来の四年生の存在価値である。然し私は恥しい哉その四年生の責任を果したとは言えない。それは後輩諸君に対しては心残りである。後悔もしているし、恥しい思いもしている。だが、その四年生の責任を果す必要がなかった状況であったと言うのは言い過ぎであらうか。

先日、現役クラブ員総会に於て、幹事学年の交替時期が三ヶ月早められ、二年生がその冬休み明けから幹事学年を引き継ぐ事が決議されたが、私はやはりそれには賛成しかねる。それは、ここに書いてきた理由で、四年生の事を考えるのならむしろ交替時期を遅らす方が良いように思われるからである。それに幹事学年としても後輩の数より先輩の数の方が一時期多くなり、それだけ私のような無責任な我儘な先輩の為何かと運営もやりにくいであろう。それに宇治先生や荒川先生、それにOB諸氏との関り合いの問題もある。その他にも問題がある。然し既に決議されているので、最早反対は出来ないが、もう一度ゆっくり考えて欲しいと思っている。

去り行く者として身勝手な事はかり書いてしまったが許してもらいたい。そしてこれからも風韻会が立派に成長していく事を心から願って止まない次第である。

何年も前の日記より

(原文のまま)

工学部 長 沢 洋 一

〔大学入学前〕 9月30日霽開気とは煙草の煙のことであることがやっと分った 10月5日良い事ばかりあればいい。10月29日「あら、あたし、いけない女？」こんな女がいい 10月30日LOVELETTER以外の女からの手紙、この位世の中でつまらないものはない 11月3日疲労で倒れてみたい 11月16日生をして夏の花のように美しく死をして私の葉のようであらしめよ(タゴール) 2月30日男の虚栄と戦闘は死にたくなる、最大の勝利は沈黙の勝利、勝て、勝て、黙れば勝てる。

〔大学一年〕 5月3日結局、大学とは新聞紙のようなもの 5月6日十九才の反抗は大人の世界に対してか？小供の世界に対してか、5月10日金が無く暇がある、何かが起って呉れ、6月1日信じよ、天が下にあり地が上にある。6月11日風韻会というところには入る。能を教えてくれるらしい 10月10日誰かに許してもらいたいのだ、誰でもいい、許して呉れ、11月2日恋らしい恋をしたこともない代りに失恋らしい失恋したこともない、そのわりには失恋の痛手をまともに浴びている、そのわりには目覚めないな、11月11日「何故にきは歌うや」夢の中にて。その人は答へにけらく、酔ひしれし赤き笑ひに「泣くよりも」(啄木) 恋のしづく、あまき涙夜より落ちよ、花より落ちよ、目より流れよ、甘きなみだ、夢のし

ずく、あまき涙(サマン) 2月7日児童心理学と金魚の話をした。「僕はもう死ぬことは考えてない。」と言ったら「私が助けてあげる」と言いやがったから「心中は絶対しない」と言う、「私もしない」と言ったので「金魚は天ぷらにして食べたなら？」っていうと「その積りよ」と言ったので何も言わずに黙っていた。
風よ：吹くなら吹け、波よ、たつならたて、冬は、かならず、春となる。

狂気の呟き

工学部 山 中 明

序

広大な宇宙空間に点在する諸々の物質。その内で、最高に不可思議なるもの——それは、「自己」。君はいったい何処よりやって来たのか。そして、何処へ行こうとしているのか。何を求めてさまよいつづける。最高に無意味である「死」へと向って……。

本論

サークル論……こんな命題に追い回されて早、卒業。「風韻会」という一個のサークルに所属した宿命か……。何故、君等はサークルについて論じたがる。

風韻会に入会する動機は各人により種々様々——「奇麗なお姉さまが居たから。」「素敵なお兄さまが居たから。」「私も、あんな奇麗なお着物で舞ってみたいわ。皆の視線の中で……。」こんなだ

わいなき理由から部室を訪ずねる者もいれば、真面目な顔で「幽玄の世界に魅力を感じたので云々。」「誦をしたくて。」なんて者もいる。どれもこれも素晴らしい動機。

しかし。これが発端となって部員としてのクラブに対する意義づけも種々様々。従って討論が絶えず、常時風韻会は問題をかかえて居る様な幻覚に陥いる。イヤ、幻覚でなく事実か？

サークル論なるものは、クラブが発足して消滅するまで果てしなく続く。結論を出すものでもなく、又、出るものでもない。自分でクラブに対する姿勢をしっかりとっていたらそれでいい。クラブに居ることは、クラブに対して責任がある事を忘れずに……。後はクラブに支配されては、いけませんよ。

サークルとは、「円」。そして風韻会は現在、二十四角形。長い辺もあれば短い辺もある。各辺がつながっているからまだ円に見える。一ヶ所でも辺が切れたらそれでアウト。図形にも何にもならない。正二十四角形を造ったら、さらに円に近くなる。そして、さらに真円へと……。果てしなく続くあゝ、サークル論。

結言

厳冬の夜空に君臨する無数の神々。神の光は冷たく冴えわたる君の脳裡をも貫ぬく。しかし。二十二万年前に発せられた光が何故かくも柔らかく優しい。君の想念を夜空の暗黒に同化させてごらん下さい。永遠の時間と空間を支配する暗黒に。その時、君は気づくはず。いかに君が小さいかを……。

その刹那、君は——宇宙の英雄！

最後の未完成

工学部 城戸隆一

もう学生に別れを告げ、風の音も聞けなくなるのか。早いものだね。いつも茫然としていて、すっきりとしたかったけれど、まあいい。何とかなると思ったけれど、何ともならなかったし。あの懐しい五月は春だったな。汗ばむ八月は宿に合い、虚な秋は張りつめて風の強い冬は耐え忍んでいた。四年前はこのリングワールドに住んでいて、リングの芯は僕自身、いや太陽だったか。結晶した酒には銀のカブトムシがよく似合う。そうじゃない、単なるカブトムシでいいんだ。

風雅の道は極められずに彼方に去りぬ。

まだ春は遠い………か。

端際 志 央

「好きなことは何ですか?」「美しいものを見ることです。」これは高校の修学旅行のバスの中で津々浦々にきこえた秀才さんの答えたひと言。単純なことに違いはないけれど美を求める心は人間の本能なのでしよう。「あなたにとって美しいものは?」「百万ドルの夜景、平家物語、能面。」このようなことを言ってみる、しかし本当に本当に一番美しいものは、人のまごころ。なんですと答えたい。

これを身にしみて教えてくれたのは風韻会のある小さなでき事であった。何ものにも替えがたいこの愛は小さいながらもずっしりと重く何よりも大切な何よりも美しい宝石となって私の心にくろげ込んだ。人と人との出来上っている世の中、一人一人がまごころを持って対すればそれはどんなに小さくても口に出さなくても必ず通じるものであることを知った。卒業という言葉は風韻会への未練のみを残している。能の世界は美を教える世界であり、風韻会はその冷々しい部室の中にも人と人との交わりの暖さを教えてくれた世界であった。会えば必ずやってくる別れというきらいな事実。その時を限りたにたえうしろ姿で歩いてきても心の暖かさだけは、いつまでもいつまでも自分のすぐそばで生き続けているような、そしていつ思い出してもその人がなつかしくなるようなそんな過去を持ちたい。さようなら……。私にとって一番美しいものを教えてくれた風韻会の中の人……。

風韻会と別れることは、とりもなおさず風韻会の中での自分を改めて見つめることになるようです。思い返せば悔恨だらけだけど、風韻会での四年間は大切な私の青春でした。もちろんいいことばかりではありませんでした。でも、それもこれもみんな今と成ってはなつかしい思い出ですし、私にとって必要なものだったことがよくわかります。

大学におけるサークルは社会から隔離されているだけに、いつも甘さにつきまとわれていると思います。けれども学生という限られた枠社会にいるからこそ、純粋なものを模索することが許されるのではないのでしょうか。私たちは夢を求めているのかもしれない。でも、たとえ夢でも求めることの大切さを私はこの四年間に学んだと思うのです。

謡・仕舞にしろ、人間的つながりにしろ、自分から進んで求める姿は美しいですね。たとえ求めたものが得られなかったにしても、その人は求めようと努力したことによって救われるのではないのでしょうか。努力した人だけが救われるのです。自分自身で何の努力も思いません。クラブの中に何物かを期待するのは怠惰しか意味しないと思います。

また、クラブによって私は、私以外の人間の存在に気づきました。そして、この人たちは私に人として生きるのに一番大切な「愛」を

教えてくれたと思うのです。表面的なやさしさは時として残酷なものです。クラブ内の生身の人間のぶつかりあいによって、本当の理解が生まれ、そこに愛が生じてくるのではないのでしょうか。

あまりにも根本的な問題ですが、クラブによって私はこれらの大切さを確かなものとしてとらえることができたような気がします。少くとも、これらを求めていくことは、これからの私の課題だと思ふのです。そうすることによって初めて、風韻会の四年間のもった意味が、私のものとなるのではないのでしょうか。

そう思うと、風韻会を卒業することは、私の新しい出発以外の何ものでもないことに、改めて気づくのです。

私の青い春の訴え

教育学部 横山博江

「シンジツ、おいしいもの？甘いもの？」「砂糖はダイエーで184円よ。」「トイレットペーパーは〇〇店にあったわよ。」「ね、スキー行かない？」「ちょっと、〇〇君は××さんだって、それからね、〇×さんは×〇さんなのよ」

「安粉砕ノ闘争勝利ノ」

梅雨に濡れた、三ノ宮のネオンサインの中を、おろしたての白いレインシューズを履いて練り歩いた過ぎ去りし日。機動隊のサーチライトが眩しくて、顔を背けながらも必死に叫んでいた私。何も、知っても解ってもいなかった私だが……。体中から込み上げてくる腹立

それは私にとって何であつたのだろうか。「ごしようだから、ごしようだから……」私は何を願つて、何を訴えていたのだろうか。顔を背けなければならなかつた哀しさが私の心を無に化した。この時、巢くうた虚しさは四年間の私の心を支配した。何重にも塗り固められた分厚い壁が、私の前に立ち開つていた。私はこの壁を打ち毀すことはできなかつた。また、そこに止まっていることもできなかつた。私の中のシンジツは、徐々に崩れて行き、今では全くその姿を、幻影すらも形造ることができなくなつてしまつた？私には何もかもが解らない。人間であることの真実は、人間であることの事実とは同じではなかつた。人間であることの事実、決して女であることの実事とも同じではなかつた。いや、いずれも現在進行形である。少なくとも、私の在している世界では。

シンジツなんて、安っぽく言葉を振りまわさないで。そんなもの何になるの？あなたには面が必要よ。節木増？若女？あなたの顔はそんなに精緻じゃないわ。ひよっこか、おた福のほうが安心よ。

「能では詞章は必要だと思ふ？」「離見の見て、どういふことやろ？心を無にしてしまつたら、どうやって能を舞うことができるんやろ？」懐しい先輩の声。何も知らなかつた、考えようとしなかつた私。

「中公の『世阿弥』読んでみ」「いや、あんなん嫌いや。戸井田道三の『能ー神と乞食の芸術ー』がええ」「北川忠彦の『世阿弥』も視点が変わつていて面白いのんちがうか」

正門前の夜景が目沁みる。虚しい会話。

「授業がありますので。」「〇〇さん行かないなら私も行かないわ。」

「今日アルバイトです。すみません。」「帰りが遅くなりますので。」

「大学とは学問をするところである。」然り。ゴロサ、大学生活において、学問とは必要かつ十分条件でありますか？クラブとは、

青春とはあなたにとって何なのでしょう？私達の青春、そしてそのエマネーションとしての姿を、今のクラブの何人の人が、自ら見出し、眺めることができるでしょうか？

「我々はノ国家権力がノ帝国主義侵略をノ」

あの懐しいアジは、もはやほとんど聞かれなくなつた。あの声は何を象徴していたのであろう？何を訴えていたのであろう？薄暗い、汚れた教養の食堂も、今では明るくいいかんじ。「焼そばの人ノ」喫茶のこわいおばさんは相変らず。

暖かい春を迎えようとしている大学のキャンパス、そして六甲台の部室？

「ゆめ」でした

教育学部 加藤 美千代

寒い。冷気が肌にしみます。今さっき、「おばさん、おばさん、今何時？」「夜中の十二時」「わあゝ」なんて歌いながら、遊んでいた可愛い子供たちの楽しそうな声が、ポケットと坐っていた私

の耳に聞こえてきていました。今は？ 深夜中の十二時すぎ。まっ

暗です。でも目の前には、神戸の百万ドル、いや一千万ドルの夜景が広がり、私の目には悲しいほどに冷たく美しく映ります。そして遠く海の向こうには、同じようにキラキラと宝石が輝やいています。空を見あげると、あのみにくいけれども心は誰よりも美しかった

「よだか」が最後の力をふりしほって頼みに行った。オリオン座、大熊座、わし座が、非常に堂々と私達を見おろしています。美しい。でも何て冷たいんでしょう。まるで氷のよう……。だけど、だ

けど私の心は暖かです。私達：そう、私の横には彼が座っていたのです。まわりには誰もいません。二人きり。そしてあたりはグングン冷えていきます。夜空には、さっきの星が見えなくなつたと思つたら、大きな雲が出てきて、そして雪の精がおりてきました。寒い？いいえ、暖かです。私はこの幸せがいつまでもいつまでも続くことを心から祈つたのです。ト、彼が「これをお食べよ」「レモンね」

私は智恵子のように、ガリリと噛みました。瞬間、その香気がパツと広がり、私の意識は正常に戻つたのです。彼の横顔をジッと見て、思いきりそのほったたいて、私はそのかじりかけのレモンをあの美しい一千万ドルの宝石の中に投げこみました。そのレモン汁はあたりを飛び散り、すべての宝石の光を消してしまい、そのしづくは一粒、二粒、雨となり、そして：大雨になってしまいました。ト、目が覚めました。みんないな夢でした。卒論「世阿弥」の完成を直前にした、ある晩の夢でした。

サークル論なんて……。この四年間、意義はありません。いろんな人と接することができ、そしてその中で自分自身を見つめることが

できたから。昨年の「JTB」合宿の最後の夜遅く、摩耶山から見おろした夜景は素晴らしかったですね……。いろいろな思い出ができました。素敵な思い出を沢山作ろうなんて思い出を目的とすることはつまらないけれども、結果的にふり返ってなつかしむことのできる思い出は素晴らしい……。夢は夢サ。

一先輩の意見

20 回生

経営学部 河野 豊

サークル論についてということであるが、風韻会を対象とするサークル論については、他の方々も述べられていることであろうから、今回は（というのには、私はまだ入部してまもない頃、同誌に、サークル論について書いた記憶があるので）卒業生としてのサークル論、OB会の今後の運営の仕方なり問題を、卒直に述べておきたい。まず、OB会として、三つの問題がある。一つは凌霜謡会が、全風韻OBを網羅していない点、二つめは、全神大風韻卒のOB会設立の問題、三つめに、宇治先生との関係。ここでは、紙面の都合もあろうから、簡潔に、私の意見を述べておきたい。

第一の問題については、凌霜謡会は、全神大風韻OBを網羅する必要はなく、独自に存在すればよく、また風韻OBの核ともなり、より強力な組織となり、全神大風韻卒OB会（もしこういう組織ができたとするれば）を、後から支援してやれるだけの組織でもなければ

ばならないと思う。私自身も、僭越ながら、より凌霜謡会を強力にすべく藤井先生、原先輩指揮のもと努力していきたい。そのためには、まず第一に、会全体を若がえらせる必要がある。

次に、全神大風韻卒のOB会設立は、早急に行うべきである。本来、OBから声がかかってしかるべきだが、現役から、設立気運が高まってきたことは、ありがたい。卒業生数名と現役二、三名で理事会でもつくり、運営して行けばどうだろう。ただ、凌霜との関係で、独自の立場を貫く必要がある。

第三に、宇治先生に、今まであまりに多く頼りすぎていたので、今度は、理事会などを強力にして、先生にあまり負担を、おかけしないような形で、諸会を運営していかねばならないだろう。

以上、余りに多く書き過ぎたきらいもあるが、今後のOB会に期待したい。

高級スイス菓子
デンマークパン
サンドイッチ

ケルン

Tel 神戸 (078) 851-7651
神戸 (078) 451-0064
西宮 (0798) 34-2121
神戸 (078) 841-3933
神戸 (078) 841-0720
本社

前北前前
駅駅協協
影山川生
御本夙道
神鉄急甲
阪国阪六
つばや

お座敷風の店

鳥 一

市電六甲口電停西浜側
TEL (851) 7512

自由投稿

貴女達へ

「お元気で……」にぎりしめた友の手をはなす時がもう今そこに来ている。

なにげなく投げ出した色紙の濃淡。

私の四年間の心の推移。

喫茶店の片隅にスマイレ色の貴女を置いてグチでくるんだ私の涙。

純白の雨傘をさしてもう一度だけ歩いてみたかった六月の貴女と……。

カトレアの花のように笑う貴女と私の世界で「幸せネ！」ってひと言いえばよかったのに……。

「お幸せに……」にぎりしめた友の手をはなして北へ帰ります。

冷たい雪にホホをあてて、そこにあなたの思い出を埋めます。

さようならの言葉とともに白玉椿を一輪ささげた
いけれど……。

お幸せに……。

さようなら……。

（四年生四羽ガラスの

一員 N・M より）

走馬燈

山口剛

神戸大学経営学部に入学の許可を得てまだ日も浅い昭和四十五年四月某日、風韻会の部室に向けてゆっくり歩いていると朗々とした謡が聞こえてきました。大阪で育った私には木々の緑が新鮮に感じられるのですが、さらに生まれて初めて聞いた謡がその木々の間に漂っているのですから、そのとき受けた印象は一種独特で清新な、すがすがしいものでした。部室まで辿り着いて戸を開けると、体操ズボンをはいて正座している方が一人でした。美声の主は谷村先輩（B19）でした。

それから二、三週たった五月九日土曜日。「昼から学生会館六階で古典芸能発表会を見た。琴・能・詩吟・尺八があったが目的は風韻会にあった。しかし見ても何の感興も湧かず面白くなかったが、あとで会について幹事に質問するといつのまにか六甲台の部室

に連れて行かれ練習をさせられて入会してしまつた。……」(日記より)。このとき初めて謡を教えて下さつたのが米田先輩(B20)。入会はしたもののよそのクラブに入りたくて、およそひと月のあいだどのクラブに入ろうかと頭を悩ましたものです。

五月十四日木曜日。「昼休み風韻会の人達につかまり、またもや入会の返事をしてしまつた。……これは経済学部三年の幹事長や同学部四年の人から懇懇と三十分余の入会の勧誘を受けた(からである)。……」(同)。当時の幹事長は福田先輩(E20)。ここに出ている四年生は根岸先輩(E19)です。風韻会との縁ができましたのは、父の勧めと福田先輩の熱心なお勧めによります。

六月二日火曜日。「いよいよ風韻会に正式に入会した。……『橋弁慶』をする。』(同)

六月三日水曜日。本気で謡を勉強する気になり、「五番綴上を買つた」(同)。その年の十二月十一日金曜日には「今日から梅田に宇治先生の個人指導を受けに行き始める。三年生の河野豊さんに連れて行ってもらい『菊慈童』と仕舞『熊野』を習つた」(同)。河野先輩はB20。

今から考えますと入会当時から二年生までが一番楽しいときでした。教えられる通りにしていればいいのですから。

昭和四十七年三月十二日、藤井教授並びに二十回生歓送謡会のあるコンパもお開きに近いころ、山本先輩(B20)に「山口。ガンバレ。」と激励していただき幹事長に就認しました。それからの一年、諸先生方、諸先輩方の御指導と幹事諸君の御協力で、微力ながらも無事に送ることができました。しかし次の一年は家庭の事情

により部室での練習に参加できず、先輩から受けた御恩を先輩にお返しすることができなくて残念であると同時に申し訳なく思っています。

こうして四年間の風韻会生活は夢のように過ぎ去ってしまいました。四年もかければ少しは聞ける謡、見られる仕舞ができるものと期待していましたが、ところが、この有様。特に後半の二年間は練習をしなかつたのですからこれは当然といえば当然でしょう。

謡や仕舞は一向に上達しませんでした。が、風韻会に入つてひとつの柱が立てられ充実した張りのある大学生生活を送ることができましたし、多くの先生、先輩、同輩、後輩、および他校の学生を知り視野を広げることができたのは大きな収穫でした。四月から始まる社会生活には四年間のクラブ生活で得た教訓を生かして努力してゆきたいと思っています。

風韻会卒業論文

山中 明

風があまりに強いから

僕の心は飛んでしまおう

昨日を今日に戻し、明日は来ないで欲しい

好きです。好きなんです。好きで好きでたまらないんです。一時でも君から離れていると気が狂いそうなんです。ヒシッと君をこの

腕に抱きしめて一生頬ずりをしていたい。心の底から君を愛してしまっただけです。好きだからと言って……

「お願い。僕を好きになって。」
なんて事言える？ ああ、絶望ノ

「二箇、通る？」

「ドーンノ当りノタンピンサンシキ 親満ノ」

なんて事をやり続けた二年間。雨の日も、風の日も、友を三人かき集める事に夢中。それが生甲斐……二年間の。

「おい、飲みに行こうか。」

「おう、行こかあ。」

一日おきにいつもの奴といつもの所へ。酔って、わめいて夢心地。上を見上げれば奇麗なお星様。瞳に映る星のまばたきは愛しい女の優しいまなざし。あの娘の顔が見たくなった。

「行こうぜ、babyノ」
なんて事を繰り返して一年。

フッと気が付けばもう四年。後ろを振り返れば何も無い。聞こえるは唯、風の音……

ここらでまとまった事しようかな。恋をしようか。桜も微笑んでらあ。よし。恋をしよう。でも、やっぱり、そのう、あのう……。そうだ。大学院でも受けてみようか。そうだ。そうしよう。決めたノアハハ……通ったぞ。これであと二年間学生でいられる。感激ノ

涙が出てくるぜ。皆さん。しっかり働いて下さい。我が日本のために。私は国立レジャーセンターにあと二年間お世話になります。

「プラズマとは、電子とイオンが同密度で存在する電離状態である。プラズマ中にラングミュアプローブを挿入し、その電圧―電流特性の *exp(φ/eT_e)*」部分より、電子温度及び……」

とうとう見つけたノ私の恋人。生涯の恋人よ。抱しめる事はできないけれど、もう君から離れられない。君は、あの娘と違って、決して私を裏切らないもの。風韻会？そんなものあったっけ。

「風韻会も、もっと外に働きかけをしなくてはいけないわ。」

「麻雀に行くくらいなら、部費払ってよ。」

「おまえ、クラブに甘えているんじゃないか。」

皆さん、御立派。頭が下がります。真剣に風韻会の事を考えているんですね。私なんかだめです。風韻会では何もしなかった。私自身は「適当」という言葉がびったり。あーあ。もっと真剣に練習に励んでおけばよかった。後悔が残るだけ。三年前と全々変らないなあ。先輩は皆立派に成長したのにね。まだ、「BEATLES I S FOREVER」なんて言っ、飲こんでいるんだもんね。ダメダ！！

風韻……それは何？

四年間の想い出？あの一ひととの出会い？いい男は沢山いたけど、美人はあまりいなかったなあ。

でも、愛しています。あなたを……そう、あなたを

でも、僕等二度と会うことはない

そう……きつと、ないだろうね

能の中の悲しい劇タヌレ

横山博江

悲しい劇。人間である以上、誰しも逃れられないもの？それを意識しない人。意識する人。そしてその中にいる自分を見つめることのできる人。あなたはどのタイプ？悲しい劇。それは哀しくも美しさもの。

ところで、能、特に世阿弥の能の主人公はどのような悲劇性を有しているであろう。現行の修羅能はほとんどすべてが世阿弥の作である。つまり「忠度」「実盛」「頼政」「清経」「敦盛」「屋島」そして井阿弥原作といわれる「通盛」があるが、これらの題名を見てわかるように、すべてが『平家物語』に登場する貴公子であり、武将である。ところが、ここに注意すべきことがある。それは「屋島」の義経を除くすべての人々が二流・三流の武将であるということとである。何故、『平家物語』を動かしていった清盛・義仲をして白河法皇（義経もそうだが、彼の晩年の悲劇性のため取材されている）が主人公として能に描かれなかったのであろうか。これらの人々こ

そが、最も悲劇的人物として挙げられる人物ではないだろうか。

私は悲劇を強者の悲劇と弱者の悲劇の二つに分けて考えてみたい。清盛にしろ、義仲にしろ、『平家』においてもあまり詳細に人物像が描かれていない。白河法皇はなおさらである。彼については他にも原因はあるとしても、前記二者は何故であろう？それは彼等の自然人としてのあまりに強烈な個性と傍若無人な行動力に因があるのではないだろうか。彼等の悲劇性は強者の悲劇性であって「やるべき事はやった」後におとずれた、彼等の個性に内在していた悲劇性であった。歌と舞を表現手段とする能では、その悲劇性を描くための複雑な人間の葛藤を表現することは困難であった。ここに能の文学的限界がある。

ところが、世阿弥が取材した能の主人公達は、抗することのできない、運命に素直に従い亡んでいく人々であった。彼等が気にかかっているのは、和歌であり、笛であり、愛する妻であるといった人間的な愛執である。それらは花鳥風月に色どられ、その運命的な悲劇性は情趣の中に溶解される。世阿弥は能の幽玄を「美しく柔和なる体」（『花鏡』）と言いきっているが、今日、私達が感得する幽玄美にはおのづと弱者の悲劇性からくる哀愁が流れており、その華やかな美しさは、逆説的な美を呈す。各々の愛執を、あるいはそれを象徴するものを統一イメージとして、人間の生に根ざした美を、詩劇として表出している。しかし、世阿中期の作である修羅能はあくまでも情趣の域を出ておらず、また世阿以前の修羅能の形式に固執したため内容的にも限界がある。が、後期作である「井筒」においては「用」として表出されていた悲劇性が「体」そのものとして表出さ

れるようになり、その美は一層冷えを増すことになる。

この考察をさらに進めていきたいが、紙面と時間の関係上、また私自身まだ曖昧な点が多くあるため、ここで止どめさせていただきたい。これは単に試論であって、私の中でさえ確たるものとなり得ていません。諸先輩ならびに現役クラブ員の方々の御批評、御批判をお聞かせ下さい。

四十八年度活動報告

内 外

E 28 浦 田 理一郎

幹事長は、事、練習に関しては、内には厳しく当らねばならない。これが、私は幹事長に就任する際、真先に思った事だった。勿論、

この事は、学生サークル風韻会の持つ二つの命題―技術の習得と部員相互間の良き人間関係の醸成―の片方のみを重視しているのではない。ただ、今迄に経験した事のない新しいものをやる以上、そしてそれが、我々が知らなかっただけで、世間的に一つの評価基準が確定しているものである以上、或る程度の所迄は進まなければ、風韻会に入部した甲斐がないというものではないか。

右のような考えのもとにクラブ運営を押し進めて来た。しかし、私達の努力が不足していた為か、部員総員でさえ、二十六名でしかないのに、二十名と部室に揃う事は少なかった。クラブ運営方針の失敗である。そして私達は、昨年、もう一つの失敗をした。諸先輩

方々への御連絡の遅れ、連絡洩れ、行き違い等々、ミスが非常に多かった事である。この事に関しては、一言もなく、おわびのしようもありません。兎に角、私共の力の至らなかつたせいであり、多くの先輩がたに御迷惑をお掛け致しまして申し訳なく思っております。つまり、私は、失敗だらけの運営を九ヶ月間行ってきた。けれども、言い換えるならば、ありとあらゆる失敗を一度にしてしまったが故に、今後、何をどう行なっていくたら良いか、或る程度迄はつきりと知る事が出来るような気がする。私は、やりっぱなしは嫌いである。後輩に、前車の覆轍を踏まぬ様、又、以って他山の石となさしめる様に指導して行きたい。

文化総務活動報告

P 24 山 崎 喜美子

文総委員として、私は全く、書く資格はありません。というのは文総委員として活動したのは、夏休み前までだったからです。この事では、いろいろな方に御迷惑をかけたと深く反省しています。そこで、少し言い訳をさして頂きますと、私は文総委員というより、文総の中の常任委員なんでもものになっていたので。最初はわけがわからなくて、張りきっていたのですが、それは全く、クラブとは関係なく思え、予期しない方向（あいまいですが、あくまでも個人的感じ方なので、ハッキリ書くことをさけたいと思います。）に、進みそうな気配がしたからです。そんな訳で、どうしても、文総に足が向かなくなり、みなさんに、御迷惑をかける事になったの

です。最後に、これから文総委員になられる方、クラブに対してはあくまでも、文総委員として、大いに活躍して下さい。そして、自分自身については、最初に十分考えて、文総の中でどの位置づけをして下さい。

学連に出て

木村 升 治

加藤さんから、バトンタッチを受けて、早一年。無我夢中のうちに過ぎ去り、後に残るのは、嘆息ばかりの次第です。学連と神大風韻会との「つなぎ役」として、この一年、必死で走り回り、風韻会の学連への位置づけをしてきたつもりです。たしかに今年は、委員長には、風韻会から寺本氏が出て、さらに、いっそうのつながりが期待されたわけです。だが何か学連へ足を運ぶ者と、風韻会内とがしっくりこない状態がつづいている中を、学連委員が、ただ一人、委員長を、バックアップした所で、どうなるというのでしょうか。当初、私は学連を知ってもらうには、委員会への一人でも多くの参加だと思い、学連委員もう一人の選出を、お願いしたのですが、そういった面にも、協力の姿勢が見られなかったのは残念です。神大風韻会全体の協力を前面におし出してこそ、始めて、つなぎ役が、糸から二重三重の網となっていくのです。現在、今にも切れそうなこの糸を必死で、捕まえている学連委員と幹事長から、連盟員全体で引っぱりよう努力してみようではないですか、そのためにも、幹事長をはじめとしての各人の積極的姿勢を、期待するのです。

神戸大学風韻会決算報告書(準備 12/31)

自昭和48年 4月 1日
至昭和48年12月31日

入		出	
今期徴集部費	101,740	先生謝礼	78,000
大学援助金	33,000	三大学	7,420
先輩寄付金	120,400	秋季発表会	49,260
雑誌「風韻」広告料	8,000	学連	19,800
園遊会純益	25,173	「風韻」印刷費	50,000
雑収	3,680	通信費	20,850
小計	281,893	文具費	1,850
前期繰越金	81,222	雑費	10,024
		普通預金及郵便振替	21,500
		小計	310,140
		現金有高	52,975
合計	<u>363,115</u>	合計	<u>363,115</u>

あしあと 昭和四十八年度

二十四日(日) 学連春季大会 於大概能楽堂

連吟「吉野天人」(シテ広野) 仕舞「高砂」(藤枝) 「田村」(寺本) 「班女」(浦田)

七月

八日(日) 四大学交歓話会 於上田能楽堂

仕舞「熊野」(竹本) (木村) 「俊成忠度」(広野) 「紅葉狩」(伏見) (田中) 「吉野天人」(岡崎) 「鶴亀」(香西) 「笹之段」(三崎) 「敦盛」(浦田) 「雲林院」(長沢) 「蟬丸」(寺本) 連吟「鶴亀」(シテ加藤) 橋弁慶(シテ伏見ワキ小島(シテ山崎))

四月

十二日(木) 練習開始

十三日(金) 新入生オリエンテーション 於六甲台講堂

八月

五日(日) 〓十二日(日) 夏季合宿 於滋賀県伊吹町

戸次先輩が参加して下さった。

五月

四日(金) 第十七回三大学交歓謡曲大会 於杉並能楽堂

十三日(日) 〓十五日(火) ジュニア合宿 於摩耶山天上寺蓮華院

二十六日(土) 新入生歓迎コンパ 於三宮コトブキ

十一月

十七日(土) 第九回秋季発表会 於学生会館ホール

主なる番組 舞囃子「班女」(浦田) 「松虫」(志岐) 「天鼓」(河野先輩) 仕舞「玉鬘」(城戸) 「雲林院」(中川) 「山姥」(藤枝) 素謡「熊野」(シテ森ワキ加藤ツレ横山) 鞭馬天狗(シテ兄島ワキ木村ツレ加藤)

六月

三日(日) 学連月並会 於本学学先会館ホール

十三日(水) 古典芸能発表会 於学生会館ホール

十二月二十五日(日) 園遊会模擬店出店 於六甲台キャンパス

宇治先生・荒川・井口・豊島・林・段野・武内・福田・米田・木村・小田諸先輩が出席して下さい。

十二月

九月(日) 学連秋季大会 於神戸能楽殿

舞囃子「東北」「横山」「敦盛」「三崎」仕舞「東北」「加藤」「班女」「木村」「桜川」「児島」連吟「善知鳥」(シテ寺本)「鉄輪」(シテ志岐)

〔幹事長就任にあたって〕

B 24 加藤久佳

此の度、風韻会幹事長に就任することになりました、実際非常に不安を感じています。というのは私自身の微力さと幹事学年が実質四名になってしまい、又練習の際も不都合が生じはしないかと心配でたまりませんが、しかし中心的存在となって頑張ろうと思えます。さて今年度の活動方針は「時間の厳守」ということです。現在六甲台の部屋には、時間的にルーズな点が顕著であって謡・仕舞の練習もちぐはぐである様に感じられるのです。そのため少しばかり抵抗がありますが、出欠表を付け、それと並行して各学年に一ヶ月単

位で課題曲を設け、時間に余裕のある場合は、その小発表会を開くつもりです。この様にある程度厳格な積古を励行したいと考えます。

サークルというものは、幹事学年のものだけでなく部員全体で構成するものであり、民主的協力的に運営したいものです。

つきましては、宇治先生、顧問教官並びに諸先輩方々の御指導と現クラブ員諸君の御協力を御願いしまして、幹事長就任の御挨拶にかえさせて頂きます。

〔新役員紹介〕

幹事長	B 24	加藤久佳
副幹事長	P 24	森章子
渉外	P 24	木村升治
会計	P 24	山崎喜美子
渉内	M 24	児島新
学連委員	E 25	岡崎啓子
	E 25	香西千秋
文総委員	P 25	木村京子
学連議長	P 24	木村升治

昭和四十九年度主要行事予定

3/2 (土) ~ 3/8 (土)

春合宿

民宿「よど荘」兵庫県津名郡五色町都志

3/16 (土)

歓送誼会

於神大学館ホール

3/19 (火)

四年生慰労ハイキング

4/1 (月) ~ 5/30 (木)

新一年生勧誘(オリエンテーションに参加)

5/3 (金) ~ 5/5 (日)

旧三商大合同発表会(一橋大、市大、神大)

5/19 (日)

5/4 (土) 発表会(於幽仙閣)

新一年生 歓迎ハイキング

強化合宿 二年生主催

5/1 (土)

新一年生 歓迎コンパ

6/1 (土)

学連春季発表会(於大槻能楽堂)

6/23 (木)

四大学合同発表会(神商、甲南、神楽、神大)

8/23 (金) ~ 8/30 (金)

夏合宿

11/16 (土)

秋季発表会(於神大学館ホール)

12/ (土)

学連秋季発表会

クリスマスコンパ

その他、学連リーダーズキャンプ、

六甲台際園遊会出店、強化合宿など

編集後記

「風韻」第十四号をお届け致します。発行に当り、原稿をお寄せ頂いた皆様に深く御礼申し上げます。

今回は、トータルテーマ「サークル論」の元に、現役クラブ員全員の原稿を掲載しました。この企画が少しでもクラブ員の相互理解を深め、明日の風韻会のお役に立てば幸いです。

反面、限り有る紙面の都合上、先輩方々の原稿を数多く掲載できなかった事を、残念に思うと共に、お詫びさせて頂きます。

今年一年は、大学も風韻会も「平穩」の一言に尽きました。「平穩」が「怠惰」にならぬ様、後輩諸君に期待します。

月日は矢の如く、はや四年がたちました。想えば……四人のお嬢ちゃんと五人のお坊ちゃん……大きくなりましたね。桜も恥じらう君達が部室を訪れたその日から、宇宙船「地球号」は太陽を四回めぐっただけ。「いとま申してさらばとて、涙と共に立ち去る我々も、今日も部室に足を運ぶ貴方も、同じ「地球号」の上。又、いつかどこかでお会いしましょう。

最後に、四年男子全員が多忙な折、十分な編集ができなかった事をお詫びします。

いつまでもいっしょにいたかった
もっと、もっと話をしたかった
でも、やっぱり……さようならなんです

(A・Y)

編集委員・四年全員

DPE サービス
カラープリント美しい仕上り

阪急六甲駅南出口東へ浜側
六甲ユニ写真店
821-2477

お茶と
茶道具

いわた元

コウベ ヒガシナダ TEL(851)3114

お食事と喫茶

エクラン

市バス六甲登山口前
TEL861-5210

▲御集會に御利用を▼

大衆酒場

コンパにどうぞ

ぜい六

市電六甲口下ル西角
電話 (851)4787